

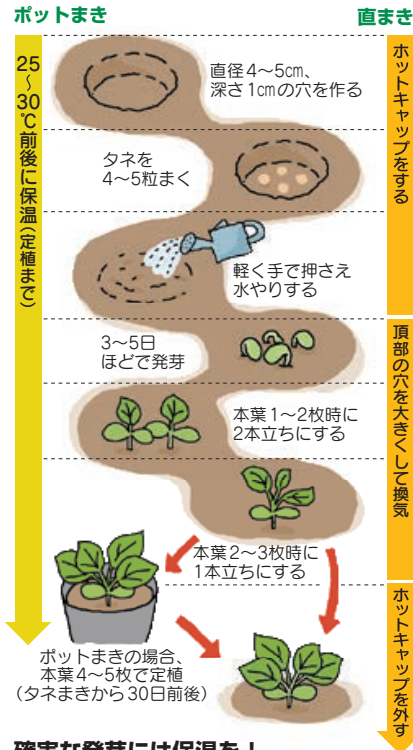


カボチャ栽培方法



1 タネまき～定植の育苗管理

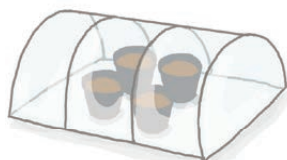
タネまきは、ポット(9～12cm)まきと直まきいずれも、直径4～5cm、深さ1cmくらいの穴を作り、2～3粒をまいて土をかぶせ、手で軽く押さえて水やりします。本葉1～2枚の時に2本に間引きし本葉2～3枚で1本立ちにします。



POINT 確実な発芽には保温を!

直まきではホットキャップをかぶせて保温し、ポットまきでも25～30℃前後になるよう保温します。3～5日ほどで発芽します。定植適期苗は本葉4～5枚(タネまき後30日前後)です。

●ポットまきの場合



25～30℃前後で保温

●直まきの場合



ホットキャップで保温

2 畑の準備～定植または直まきまで

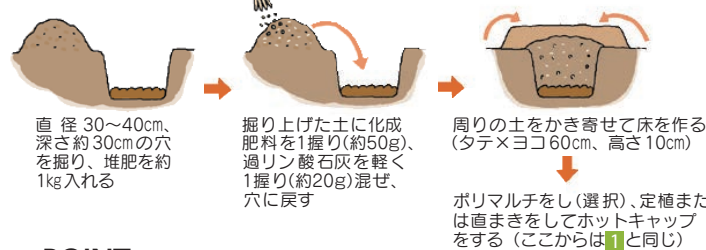
定植または直まきの2週間以上前までに苦土石灰を散布して深く耕します。1週間前に、直径30～40cm、深さ30cmほどの穴を掘り、底に堆肥を入れ、掘り上げた土に化成肥料、過リン酸石灰をかきまぜて穴に埋め戻し、周りの土を集めて高さ10cmほどの定植床または直まき床を作ります。株間は1mほどにします。

●2週間以上前

1. 苦土石灰を2～3握り(100～150g)入れる
2. よく耕す



●1週間前



POINT 肥料のやりすぎ厳禁!

苦土石灰は1㎡当たり2～3握り(100～150g)、1穴当たり堆肥は約1kg、化成肥料(N:P:K=8:8:8)は1握り(約50g)、過リン酸石灰は軽く1握り(約20g)とします。定植は深植えにならないように注意しましょう。定植後はホットキャップをかぶせ、つるが伸びてきたら取りはずします。

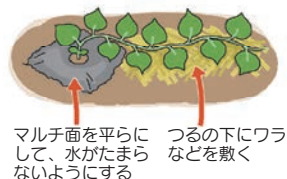
4 病虫害

うどんこ病と疫病が大敵です。うどんこ病は雨量が少なく、乾燥ぎみの天気が続く時に発生します。疫病は水はけが悪い畑や、長雨が続き続いた時に発生が多くなります。雨による泥のはね上げを防ぐために、株元にポリマルチをしたり、つるの下にワラを敷いたり、果実にはマットを敷くとよいでしょう。

POINT 病害は初期防除に努める!

うどんこ病は初期のうちしっかりと防除します。ポリマルチのデコボコは水たまりができてやすいので、畝作りの時注意しましょう。

●疫病などの病気を防ぐため



マルチ面を平らにして、水がたまりないようにする

つるの下にワラなどを敷く



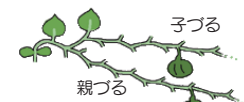
果実の下にマットなどを敷く

3 定植後～収穫までの栽培管理

整枝は、西洋種では親づる1本と子づる1本、日本種、ペポ種では親づる(本葉5～10枚で摘芯)と子づる2～4本の仕立てとし、着果前は他の子づるをはかき取り、後は込みすぎたつるを摘除します。ペポ種でツルなし種(ズッキーニ)の整枝は不要です。追肥は、着果した果がこぶし大になった頃に、化成肥料を株元から40cmのあたりに施します。

●整枝

- 西洋種 親づる1本と子づる1本



●日本種・ペポ種

- 親づる(本葉5～10枚で摘芯)と子づる2～4本



●追肥

- 化成肥料軽く1握り(20～30g)を株元から40cm離れたところに散布する



●人工授粉

- めしべにおしべをつける



POINT つるの整理は早めに行う!

追肥は、化成肥料を1株当たり軽く1握り(20～30g)とします。着果を確実にするため、雌花が咲いたら、早朝、雄花の花粉を雌しべにつける(人工授粉)のもよいでしょう。

5 収穫

西洋種は開花後40～50日ほど経って、果梗のひび割れが十分コルク化したら収穫します。

日本種は開花後25～30日経って品種特有の色になり果面に白い粉がふきだしたようになってきたら収穫します。ズッキーニは開花後4～7日、長さ20cm程度、太さ3～4cmで収穫します。

POINT 着果と摘果は確実に!

西洋カボチャは収穫後、風通しのよいところに置き1週間ほど乾燥させる(キュアリング)と、日もちがよくなり、また、おいしくなります。

●収穫



西洋種 へたがコルク化したら収穫(開花後40～45日)

●日本種・ペポ種(ズッキーニを除く)



へたが褐色になったら収穫(開花後25～40日)